地道に福祉に取り組む松中健治

厳しい闘病生活を続ける人工透析の患者会・腎友会の活動の方々に出会うことにより、福祉政策を勉強し、福祉の向上にささやかながら協力することが出来ました。

腎友会の活動実績は福祉全般にも適用されるので、いろいろと参考になるので他の団体からも頼りにされていると聞きます。

福祉に弱い松中と言われながらも、地道に福祉支援、障害者作業所、老人介護施設等に関わっていくつかの成果を上げてきました。これも会員他諸団体の活動が大きな力となっています。

福祉に取り組みながら、自助、共助、公助と「出来ることをとにかくやる」 との精神を知り、さらに障害者はじめ弱者支援に努めていきたい

公助の立場で、東日本大震災等災害時を考えると、弱者に対する救助活動対策はいつおきても問題のないようにしておかなければならないと思っています。

特殊事情を考え、広域的対策の必要性があり、ヘリコプター等の航空機動力も考えるべきであり、自助の精神から災害時要援護者がゼッケン等で、すぐ分かるように検討すべきであると議会でも提案しました。

日頃の対応訓練が大事であります。私はガンをはじめ、大きな病を乗り越えてきましが、私は70才を過ぎた老人弱者であり、当事者としても福祉の充実は必要だと実感します。

以前、下記にあります「内海 豊 会長が松中健治氏について」を語っていただいたこと、これからも忘れずにいきたいと思います。

当会の顧問であります松中健治氏には当会設立以来、永きにわたり鎌倉市役所の各部・課との間に入って頂き様々な橋渡しをしてくださっています。

例えば、福祉課との話し合いの間ではタクシー券の導入に始まり、運用開始の増枚数化推進並び障害者福祉助成制度の維持改善などに多大な尽力を頂いてきました。

また、まさかの災害時に透析患者には欠くことのできない**水、電力、移動対策**の特殊事情の説明、助言など行政側に引き続き行って頂いているところです。

さらに国の改革に対し地方の福祉見直しが進めれようとしている現時点で、 氏には引き続きご助言、ご協力をいただける立場にあることは当会にとっ ても本当に有り難いと思います。

鎌倉市議会議員 松中 健治 マイ オピニオン No.6